

## アイデア結集 除染支援

## 研究者有志 村内で調査・実験

福島第一原発事故で計画的避難区域となった福島県飯館村の除染を専門知識を持って支援しようと、研究者有志の集団「ふくしま再生の会」が村内で実験を行っている。住民と組んで畑や山林で多角的な除染のアイデアを試し、避難先からの「2年後の帰村」を計画に掲げる村に成果を提案したいという。

ふくしま再生の会は、

町や実験を重ねている。

「物理的知識で被災地復興を支援する相馬市の会は、車を使った村内の放射線量の分布マップ作りを手始めに、水系の調査、家屋の洗浄、植物にできるのは」と話す。山林では落ち葉の放射線量が低い。村の集落は里山に近く、会と住民は「生活環境からの放射線除去には、家だけでなく裏山の除染も必要」と話し合い、9月末から民家の裏の林で実験を始めた。米国製の落ち葉の大型掃除機を企業の支援で村に運び、吸い取り実験を行ったところ、線量は半減したという。「落ち葉をためる袋の材質、仮置き場の確保など検討課題は多いが、一定の結果は出た。より広い面積で試したい」と田尾さん。伊達市で家族と避難生活を送る菅野さんは「除染は帰村の一番の課題だ。地元と研究者がしめにつながり、知恵を集める取り組みが生えれば」と成果を期待している。

## 住民と連携、家屋洗浄や落ち葉掃除



佐須地区を調査で歩く田尾さん（中央）ら再生の会メンバー。9月23日、福島県飯館村

## 帰村実現へ成果提案